埋文センターの調査から　速報

佐伯（さえき）遺跡（亀岡市）

佐伯遺跡は、亀岡盆地西端部の平野部に広がる遺跡です。綾部市に所在する綾中廃寺と同じ文様の軒丸瓦を含む大量の瓦や、仏教信仰に用いられる瓦塔の破片、多数の墨書土器などが出土しました。

大量に出土した瓦類や瓦塔の存在から新たな古代寺院と判断されます。また、瓦類の下層で見つかった南北方向の掘立柱塀は、寺院の区画施設の可能性が考えられます。

▲ 大きな柱を用いた南北にのびる塀がみつかりました
（柱列 24 m 以上、柱間 2.5 ～ 2.8m）

遺物が語る京都の歴史

「方杖（ほうづえ）」のある家形埴輪（大山崎町土辺（つつべ）古墳）

京都府指定文化財

張り出した屋根を支える「方杖」をもつ家形埴輪は、他に類例がありません。現存する建物としては、中国や東南アジアに類例が見られます。入母屋造の屋根と方杖は、まさに、首長の居館にふさわしい構造と言えます。

復元高：約 100cm、屋根幅：約 84cm、屋根の奥行き約 63cm

発掘調査 よもやまばなし

なぜ、わかるの？

柱穴や竪穴建物がそこにあることが「なぜ、わかるの？」という質問をよく聞きます。地面をミリ単位で削っていくと、土の色や質の違いから、写真のように輪郭を見つけることができるのです。

【発行日】平成31年３月
【編集・発行】
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617−0002　京都府向日市寺戸町南垣内 40 番の３
http://www.kyotofu-maibun.or.jp

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER

もっと知りたい

京都の遺跡

第３号

都の瓦を焼く

丸瓦を階段状にならべた梅谷瓦窯跡４号窯
（1994 年　当調査研究センター調査）

～奈良山瓦窯跡　考古学散歩～

平城宮の背後にある奈良山丘陵では、都で使用する瓦を焼く瓦窯跡が数多く見つかっています。粘土の採掘や燃料となる木々、熱効率の良い窯を築くための丘陵斜面、そして製品を搬出する道や河川などの好条件が整っていたようです。

どのような瓦窯が造られていたのか、ゆっくり見ていきましょう！

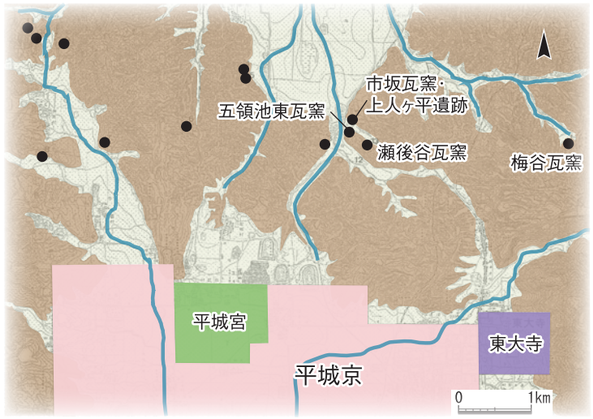
【国史跡】梅谷瓦窯跡

平城京への遷都を強く推し進めた藤原不比等など藤原氏の氏寺である興福寺の瓦を焼いた窯です。７基の窯には、当時の焼き物である須恵器を焼いた窯と同じ構造を持つものもあれば、熱効率を良くし、瓦を安定させるために窯の床面に丸瓦を階段状に整然と並べたものがありました。

上空から見た発掘調査当時の梅谷瓦窯跡▶
現在は住宅地の中に保存されています。

瀬後谷瓦窯跡

窯のなかに丸瓦を利用して段をつくり、瓦を並べて焼いていました。



▲奈良山丘陵の瓦窯跡の分布
（●は窯跡）

五領池東瓦窯跡

聖武天皇の皇后であった光明皇后の一周忌に建てられた法華寺阿弥陀浄土院で使用された瓦を焼いた瓦窯です。

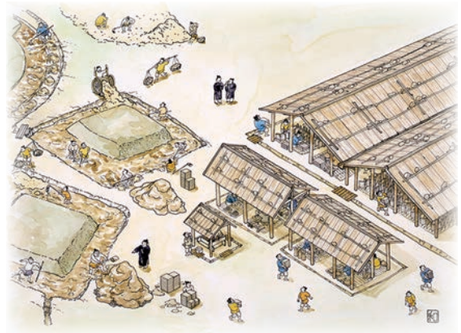
窯の内部に高く積まれた平瓦▶

上人ヶ平遺跡

瓦をつくるためには、粘土の採取、粘土の調合、瓦への成形、成形した瓦の乾燥、瓦の焼成という作業工程があり、でき上がった瓦は最終的に仕上がりをチェックされて都に運ばれます。

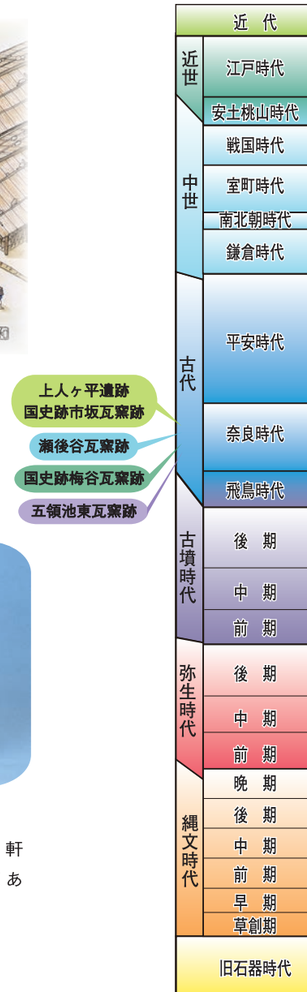
▲上空から見た発掘調査当時の上人ヶ平遺跡
上人ヶ平遺跡は、瓦を作るための作業工程がわかる遺跡で、体育館ほどの広さのある建物で瓦の成形や乾燥などを行なっていました。現在は遺跡公園として整備されています。

▲平城宮で使用された瓦を焼いていた市坂瓦窯跡
上人ヶ平遺跡とともに遺跡公園として整備されています。



▲上人ヶ平遺跡での瓦の作業工程の復元画
（早川和子画）

【国史跡】市坂瓦窯跡

瓦だけを焼いた市坂瓦窯では、７基の窯が見つかっており、７号窯では燃料を入れる焚き口部分を含めて見つかっています。

▲梅谷瓦窯跡出土の軒丸瓦・軒平瓦
建物の軒先を飾る軒丸瓦は蓮の文様、軒平瓦には唐草文を描いているものが多くあります。